

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第4回）

議事要旨

日時 2012年5月21日（月）14:00-17:00

場所 日本学術会議 6-A（1）会議室（6階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、西尾幹事、長野幹事、岩本委員、永原委員、樋口委員、

陪席 事務局（石原参事官 他）、文部科学省研究振興局学術機関課（杉浦課長補佐）

配布資料（添付省略）

- (1) 前回議事要旨（案）
- (2) 今後の方針に関するご意見
- (3) 「提言 学術と産業を結ぶ基盤研究および人材育成の強化 -応用物理からの提言-」
総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
- (4) 委員名簿

議題

1) 前回議事要旨(案)の確認

前回の議事要旨について、原案通り了承された。

2) 大型研究計画の目的・位置づけについて

- ・ 資料2の各委員から寄せられた意見に基づいて出席委員から各自の意見の補足説明が行われた。
- ・ 研究者コミュニティの合意が2010、2011それぞれのマスタープラン採否において重要視されたが、改めて今このコミュニティの合意の位置づけについて議論された。
- ・ 荒川委員長から以下の大型研究計画の目的・位置づけが表明され、この案に基づいて意見交換された。
 - ① 本計画は、科学者コミュニティの代表としての日本学術会議が主体的に作成するものであり、学術全般を展望しつつ、学術のさらなる進展のために各分野において必要な大型研究を網羅するとともに、我が国の大型研究のあり方について、一定の指針を与えることを目的とする。
 - ② 学術分野のビジョンに立脚した大型研究計画（以下大型研究A：仮称）および予算化に向けた重点大型研究計画（以下大型研究B：仮称）をマスタープランとして策定する。前者は、各分野において必要な大型研究の網羅を目的とするものであり、後者は、我が国の大型研究計画の実現の具体化をめざす。
- ・ 上記の大型研究Aならびに大型研究Bについて、大型研究の定義、研究計画の順位付け、公募方法、マスタープランとしての採択件数、提案者、学術会議会員あるいは連携会員によるendorsement、応募計画と日本学術会議の分野別委員会あるいは学協会との関係等、種々の観点から議論された。例えば、分野別委員会で分野の将来ビジョンを描き、それに基づいて重点領域を設定する事の必要性などの意見も出された。
- ・ なお、大型研究において、AならびにBの表記は異なる意味で2010、2011のマスタープ

ランで使用されているので、変えた方が良いとのアドバイスがあった。

- ・ 評価項目として、①計画の学術的価値、②計画の実施主体、③共同利用体制、④計画の妥当性・緊急性、⑤計画の戦略性、⑥研究者コミュニティの合意等々が挙げられた。
- ・ 評価は、大型研究計画審査委員会（仮称）を設置してそこで実施するなどの案、あるいは2段階審査の必要性などの案が出された。
- ・ 2010 および 2011 のマスタープランは日本学術会議「日本の展望－学術からの提言－」との関係が明確ではなかったとの指摘があった。
- ・ 本分科会で、例えば上記の大型研究Bを審議するような場合には、文科省を含む関係省庁から審議依頼を受けることの必要性も議論された。
- ・ 既に実施中の計画のフォローアップをする必要があるとのコメントも出された。

3) 今後の進め方

次回は、大型研究計画の目的・位置づけについて議論を深め、具体的に内容を詰めていくこととした。

4) その他

次回の日程については調整中。

以上